

第4回第1ワーキンググループ会合 議事概要

1 日 時 令和4年8月26日（金）9:58～12:12

2 場 所 遠隔開催（Web会議）

3 出席者

【委員】

福田 慎一（座長）、伊藤 恵子、川崎 茂、白塚 重典、菅 幹雄、樋 浩一

【臨時委員】

宮川 幸三、山澤 成康

【専門委員】

小巻 泰之、斎藤 太郎、新家 義貴、滝澤 美帆

【審議協力者】

内閣府、総務省、財務省、文部科学省、経済産業省、日本銀行

【事務局】

（総務省）

統計委員会担当室：萩野室長、吉野政策企画調査官

4 議 事

- （1）デフレーターの充実について（建設、小売サービス）
- （2）デフレーターの充実について（医療、介護、教育の質）
- （3）グリーンGDP（仮称）などに関する課題について
- （4）QEの推計方法に関する包括的な見直しについて
- （5）第1ワーキンググループ審議結果取りまとめ

5 議事概要

- （1）デフレーターの充実について（建設、小売サービス）

事務局から資料1に基づき説明後、内閣府から資料1の参考に基づき説明があった。次期基本計画における取扱い及び基本的な考え方は一部修正することとなったが、おおむね「適当」と評価された。

主な発言は以下のとおり。

- ・ 小売サービスの価格の把握方法の実施時期について「令和7年度から実施」とあるが、令和7年度を待たずとも検討を着手できることから、それが伝わる表現にすべきである。
- ・ 基本計画における実施時期の設定に当たって、実装に向けた作業計画について具体的に示した方がよい。

(2) デフレーターの充実について（医療、介護、教育の質）

事務局から資料2に基づき説明後、質疑が行われた。次期基本計画における取扱い及び基本的な考え方は一部修正することとなったが、おおむね「適当」と評価された。

主な発言は以下のとおり。

- ・ 「研究方針を検討する」とあるが、方針を検討するだけでなく研究を進めるという趣旨が分かるよう表現を工夫すべきである。
- ・ 例えば、医療のアウトプットとは何かなど根源的な問題も抱えており、デフレーターにおける質調整という単純な問題ではないことに注意した表現とすべきである。
- ・ 基本計画の別表ではなく本文の中で、本課題の性格を説明するなどの工夫はできないか。

(3) グリーンGDP（仮称）などに関する課題について

事務局から資料3に基づき説明後、内閣府から資料3の参考1に基づき説明があった。次期基本計画における取扱い及び基本的な考え方は「適当」と評価された。

主な発言は以下のとおり。

- ・ 研究を進めるに際しては、他の行政機関や学会との役割分担に留意しながら、互いに連携を図っていくべきである。

(4) QEの推計方法に関する包括的な見直しについて

事務局から資料4-1及び4-2に基づき説明後、質疑が行われた。資料4-1については、次期基本計画における取扱い及び基本的な考え方は「適当」と評価された。また、資料4-2については、一部修正することとなったが、おおむね「適当」と評価された。

主な発言は以下のとおり。

- ・ QEの公表早期化について、現行案だと令和7年度まで着手しないとの誤解を生む可能性があるため、進められる範囲については進めていくことが伝わる記載にすべきである。
- ・ QEの公表早期化のためには基礎統計の公表早期化が必要となる場合があるが、今後どのように取り組む予定か。

→ まず、QEの公表早期化を進める上でどの基礎統計が制約になっているかを精査し、その検討結果を踏まえて、関連する1次統計作成部局と連携を図っていく、という流れを想定している。

(5) 第1ワーキンググループ審議結果取りまとめ

事務局から資料5に基づき説明後、質疑が行われた。次期基本計画における取扱い及び基本的な考え方は一部修正することとなったが、おおむね「適当」と評価された。

主な発言は以下のとおり。

- ・ 分配面の四半期GDP速報の公表については、これまで時間をかけて議論してきた経緯があり、結論を出す時期と考える。そのため、次期基本計画では、作業内容や実施時期などを具体的に記載すべきである。

以上

<文責 総務省統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>